

評価項目	重点目標	取組の内容と評価の観点 (3.5ポイント以上・90%以上をA 2.5ポイント未満 7.0%未満をC)			中間評価 (10月26日時点)		◎学校関係者評価	評価	期末評価	
		具体的な方策 (取組)	★取組指標 (4段階教員平均・前期比較)	★成果指標 (肯定的評価・前期比較)	○成果と▽課題	●▼期末への方策等			○成果と▽課題	●▼次年度への方策等
確かな学力の向上	児童が、問いやめあてを主体的に追究でき、分かりやすい授業の実現を図り、学力を向上させる。 【施策1】	1 教員一人一人が学力向上マイプランを作成し、自分タイム・みんなタイム・振り返りタイムで構造化した四谷スタイルの授業を通して、分かりやすい授業を行う。 【研究推進委員会】	★教員アンケート①【共通】(3.7ポイント) A あなたは、分かりやすい授業を行っている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標① 4マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い、他学級の参観を行った。 3マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い、他学級の参観を行わなかった。 2マイプランに基づいた授業公開を1回以上行った。 1上記以下	★児童アンケート⑨ (R5 93.6%) A 先生の授業は分かりやすいと思う。 ★保護者アンケート⑧【共通】(R5 89.8%) B 四谷小の先生は、分かりやすい授業を行っていると思う。	○生活科・社会科の授業を中心に、各教員が学力向上マイプランを継続的に作成して取り組んでいることが、児童は授業が充実していると感じていることにつながった。	●学力向上マイプランに示した授業改善の取組を進め、社会科の研究授業を通して、四谷スタイルの授業のよさについて共通理解を図っていき、さらなる授業の充実を図る。	◎昨年度同様学校長が明確にビジョンを示している。そのため、各教員が、分かりやすい授業のために、何を、どのように子供たちに学ばせるのかが、捉えやすい。	A	○児童アンケートは中間より肯定的意見が高まった。子供が考えるための授業改善が進んでいる捉える。 ▽保護者アンケートは、昨年はA評価だったが、今年度はB評価となった。	●学力向上マイプランに基づいて1時間の授業「よつやスタイル」を継続して推進し、全ての教員が全ての教科で実施していく。 ▼学校公開等で、子供たちが、主体的に学んでいる姿を見せるようにする。
		2 Iタイムの計画に基づいて、学習のねらいの実現に向けて教師と児童がGIGAタブレットを効果的に活用した授業を行う。 【情報部】	★教員アンケート②【共通】(3.6ポイント) A あなたは、「主体的・対話的で深い学び」の視点で、タブレットPCなどを活用している。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標② 4ドリルパーク以外のソフトを活用して授業のねらいに応じた活用を毎日3回以上、教師も児童も活用した。 3授業のねらいに応じてタブレットを毎日3回以上、教師も児童も活用した。 2授業のねらいに応じてタブレットを毎日、教師も児童も教室等で活用した。 1上記以下	★児童アンケート⑥ (R5 89.5%) B 実物投影機やパソコンなどを使った授業は分かりやすく楽しい。 ★児童アンケート⑦【共通】(R5 88.8%) B タブレットPCなどを使って、「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業が好きだ。 ★保護者アンケート⑩【共通】(R5 87.1%) B 四谷小は、タブレットPCなどを使って、子どもが「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業をよく行っていると思う。	○各教員がICT機器を児童の交流活動に重点を当て、適材適所で活用したことで発表ノートの活用率が高まった。 ▽児童同士が意見を交流する際に、通信状況の影響でタブレットを活用する方が不便だと感じている児童もいる。	●Skyやベネッセと連携し、研修を行うことで、活用スキルがアップしたため、継続して研修を計画する。 ▼児童の意見の共有させる際、新しく加わった有効なツールを、教員が研修を通して活用できるようにする。	◎四谷スタイルの授業を確立することで、どの学年の子供たちも、学びに向かう方向性が同じため、よい学習環境を整えていることがわかる。 ◎児童がタブレットをよく使用し、学習のツールとして取り入れることができている。		○教員はSkyや区の教育課題研究発表会に参加することで、GIGA端末を活用して児童の学びを深めるための授業改善ができたことと肯定的な評価となった。 ○児童、保護者も、GIGA端末を活用した授業については、9割に近い肯定的評価である。	●ICTの効果的な活用の推進に向けて作成したIタイム(教科外でのICT計画)を基にした教員の指導内容の共通理解を図り、次年度は協働歩調を進めていく。 ▼GIGA端末の有効な活用方法を次年度は、計画的に企業と連携し研修計画を立てる。
		3 授業中のみならず、朝の会前の時間やモジュール学習、家庭学習などでGIGAタブレットのドリルパークを活用して基礎的な内容の定着を図る。 【教務部】	★教員の取組指標③(3.6ポイント) A 4以下の3の取組に加え、毎日のタブレット含めた家庭学習を学年×10分程度出して取り組ませた。 3モジュール学習の時間以外の朝の時間や授業時間等でもタブレットなどで基礎的な内容の定着を行った。 2モジュール学習の時間に基礎的な内容の定着を行った。 1上記以下	★保護者アンケート⑨ (R5 91.8%) A 四谷小の先生は、子供たちに基礎・基本の学力をつける指導力を入れている。	○デジタルドリルを活用して漢字や計算の反復練習に取り組ませたため、継続してタブレットを活用して学習する習慣が身に付いている。	▼漢字についての習熟が課題であり、タブレットと漢字ノートをしかりと併用して定着を図る必要がある。	◎児童がタブレットをよく使用し、学習のツールとして取り入れることができている。		○デジタルドリルを活用した学習は、教員・保護者・児童とともに、肯定的な意見が高く、漢字や計算の反復練習に効果的である。	▼ドリルパーク等で基礎的知識や技能の定着を図り、学力下位層の減少に努める。
豊かな心の育成	学校行事や学級活動、道徳教育を通して、人権意識や規範意識の向上に努め、支持的風土のある学校を作るとともに、特別支援教育への理解伸長と具体的支援や支援体制の充実を目指し、児童が安心して生活できる環境の実現を図る。 【施策2】 【施策8】	1 挨拶や言葉遣い、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的生活習慣の定着や規範意識の向上に向けて集団生活や社会のルールを明文化して教職員で共通理解を図り、保護者と協働する取組を積極的に進める。 【生活指導】	★教員の取組指標④(3.4ポイント) B 4以下の3の取組に加えて、学級でも工夫した取組を行った。 3以下の2の取組に加えて、学年で工夫した取組を行った。 2毎日の挨拶指導と長期休業明けの生活習慣改善の指導を行い、課題がある児童は個人面談等で保護者に伝えた。 1上記以下	★児童アンケート④ (R5 84.6%) B 四谷小の友達と、元氣よく挨拶と返事ができていると思う。 ★児童アンケート② (R5 75.2%) B 早寝、早起きをして、朝ごはんを食べている。 ★保護者アンケート⑤ (R5 67.5%) C 四谷小の子どもたちはあいさつの習慣が身に付いている。 ★保護者アンケート⑥ (R5 79.6%) B 四谷小の子どもは思いやりの心や社会のルールを守る態度が身に付いている。	○通知表に、遅刻の回数を入れ、早起きを啓発したことで、遅刻をしないよう意識する児童が増えた。 ○全校朝会やあいさつ運動をすることで、児童のあいさつの声が少しずつ大きくなっている。	▼あいさつ運動に協力をいただいている地域や保護者の方には、あいさつがよくできているという言葉が聞かれるが、多くの保護者には実感が伴わないため、学校だよりやHPで活動の様子を発信して周知を図る。	◎あいさつ運動に関しては、スマイルクラブの活動のHPなどでも紹介して、児童が頑張っていることを伝えていきたい。 ◎いじめの早期発見については、hyper-QIなどを活用して児童の理解を深めることに有効だと感じた。学校でのいくつかのアンケートを丁寧に分析して、四谷小学校の児童が楽しく学校生活を送ることができるように望む。また、相談できるという意見が多いことに安心した。	A	△児童、保護者ともにあいさつや生活習慣についての肯定的評価が他の項目と比べて低い状況である。 ○あいさつの意識を高めるために、地域や保護者と連携をしたあいさつ運動は、月に1回、計画的に実施できている。	▼あいさつ運動に参加している地域の方からは、あいさつをする児童が多いと評価を得ている。保護者にも、児童のあいさつの状況を学校だより等で、発信していく必要がある。
		2 長期休業明けの基本的生活習慣の改善を促す取組を行うとともに、いじめアンケートやいじめ防止授業を行い未然防止に努める。 【生活指導部】	★教員アンケート⑤【共通】(3.8ポイント) A あなたは、児童の話や聞き取りなど、交友関係の把握やいじめの早期発見に努めている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標⑤ 4以外の3の取組に加え、学年・学級等で工夫した取組を行った。 3いじめ未然防止の授業を行い、いじめアンケートで解消に向けた取組を行った。 2いじめアンケートにより解消に向けた取組を行った。 1上記以下	★児童アンケート⑮ (R5 96.0%) A いじめはイヤなことだと思う。助けられないのイヤなと思う。(ぼう力、らんぼうな言葉、いやがることを言う、無理にさせる、ものをとる、かくす、無視する) ★児童アンケート⑯【共通】(R5 85.5%) B いじめなどの問題があるときには、すぐに先生に相談することができる(しようと思う)。 ★保護者アンケート⑮【共通】(R5 92.0%) A 子供がいじめやいじめの疑いがある時には、学校に相談することができる。(しようと思う)	○いじめの早期解決に向けて、校内組織を有効に活用することができている。そのため、保護者とも連携を図り、いじめの早期解決につながっている。	●hyper-QIの結果を踏まえた取組やいじめ防止プログラムの確実な実施を行う。 ▼児童にとって、担任だけではなくSCなどを通して、いつでも相談できる環境づくりに努める必要がある。	◎いじめの早期発見については、hyper-QIなどを活用して児童の理解を深めることに有効だと感じた。学校でのいくつかのアンケートを丁寧に分析して、四谷小学校の児童が楽しく学校生活を送ることができるように望む。また、相談できるという意見が多いことに安心した。		○いじめなどの問題については、児童も保護者も学校に相談をすることができるといった肯定的評価が9割以上である。 ○教員は、いじめアンケート等をもとに、児童理解につとめ、早期解決に努めている。	●今年度は、いじめ対策委員会を定期的に関き、未然防止に努めた。次年度も、生活指導主任を中心に、組織的な対応をすることで、いじめの早期解決に努める。
		3 対象となる児童の合理的配慮を検討して個別指導計画を作成・活用したり、校内委員会を定期的に開催して具体的・組織的な支援の充実を実現したりする。 【特別支援委員会】	★教員の取組指標⑥(3.7ポイント) A 4学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学年や専科との情報共有、学級での適切な支援を行った。 3学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学級での適切な支援を行った。 2学級生活支援シートと個別指導計画の作成を行って支援をした。 1上記以下	★児童アンケート⑰ (R5 82.5%) B 学校へ行くのは楽しい。 保護者アンケート⑲ (R5 95.8%) A 四谷小の子どもたちは仲よく生活しており、学校での様子は楽しそうである。	○1、2学期に必要な個別指導計画を計画的に作成できた。 ▽低学年に支援会議や不登校傾向になる児童が増えているため、早期対応の取組を検討していく。	●特別支援校内委員会に加えて、不登校支援委員会を今後も継続的、定期的に行い、支援を担任のみの負担が大きくなるように組織的解決に努める。	○学校生活の様子については、保護者は肯定的評価が9割以上と高い。 △低学年については、校内委員会を定期的に行い、対応策を考えたが、改善は難しかった。		●特別支援教育の充実に向けて、校内支援シートを整理し、教職員で一丸となり児童理解を深めていくようにする。	

体力の向上	<p>体育授業の実施や運動の日常化を図り、体力を向上させる。 【施策2】</p>	<p>1 トップアスリートを招聘するとともに、体育授業の工夫・改善をして体力向上の取組を学年・学級でも推進する。 【体力向上委員会】</p>	<p>★教員の取組指標㉗ (3.6ポイント) A 4年間1回以上外部講師を招いた体育授業の実施と、学級での体育授業の工夫・改善の両方を進めた。 3学年で1回以上外部講師を招いた体育授業を実施した。 2学年や学級で体力向上体育授業の工夫・改善を継続して進めた。 1上記以下</p>	<p>★体力テストの結果で都平均を超えている種目等 ○概ね全国平均程度・都平均よりやや高い。以下は学年男女別の8項目の中で都平均以上の数。 1年男:5項目 2年男:6項目 3年男:5項目 4年男:4項目 5年男:5項目 6年男:4項目 1年女:4項目 2年女:5項目 3年女:3項目 4年女:4項目 5年女:5項目 6年女:5項目</p>	<p>○体力向上部を中心に、児童の運動量を確保した体育の授業の工夫ができた。 ○計画的にアスリートを招集した授業ができた。</p>	<p>▼11月より校庭が半分近く使用できなくなるため、体力低下を防ぐための対策を体力向上部で検討していく必要がある。</p>	<p>◎四谷小は、オリンピックアスリート選手と触れ合う機会が多く、子供たちにとっては、貴重な経験となる。 ◎体力テストの結果を見て、都の平均よりも高く、安心した。継続して運動をする機会をもっとほしい。</p>	A	<p>▽体力テストでは、都の平均よりも下回っている種目があり、校内で運動能力を高めるための方策を検討していく必要がある。</p> <p>○集会や体育の時間を通して、新宿ギネスの取り組みが増えた。 ▽コーディネーショントレーニングに関する教員の理解が足りていない。</p>	<p>●トップアスリートの招へいは、児童の運動する喜びへのよい動機づけになった。計画的な招へいを次年度も行い、その様子を広報していく。</p> <p>●集会を通して、新宿ギネスに取り組み、学級ごとの記録を計画的に発表することで意欲づけをしていく。 ▼コーディネーショントレーニングの研修を実施する。</p>
	<p>2 新宿ギネスやコーディネーショントレーニングなどに取り組み時間を保証し、体力の向上や運動の日常化に努める。 【体力向上委員会】</p>	<p>★教員の取組指標㉘ (3.2ポイント) B 4新宿ギネスやコーディネーショントレーニングに加えて体力向上の取組を独自に実施した。 3新宿ギネスとコーディネーショントレーニングを行った。 2新宿ギネスに取り組み、児童に記録を残させた。 1上記以下</p>	<p>★児童アンケート㉙ (R5 70.6%) B 休み時間は、校庭や屋上でよく遊んでいる。</p>	<p>▼校庭の工事の予定を重視したため、新宿ギネスの取組については、11月以降に重点を置く形となった。</p>	<p>▼教員相互の研修を通して、コーディネーショントレーニングを屋上を活用して児童に指導できるようにしていく。</p>	<p>◎四谷子ども園との交流は、園児が学校に入学する際に、スムーズに連携することにつながるため、非常に有効である。</p>	<p>○全学年が作品交流をできた。 △計画通りに交流を行うことができなかった学年もあるため、学年主任を中心に連絡・調整を徹底させる。</p>	A	<p>○各学年で計画通りに交流ができた。また、1年生に関しては、11月の全小社研の研究発表会で、児童と園児の交流の学習場面を発表した。</p>	<p>▼次年度に向けて、児童委員会を中心に、計画的に作品交流が進捗しているのかの確認を徹底させる。</p> <p>●3学期から実施した「かけ橋プロジェクト」を次年度以降に充実させ、さらに連携の充実を図る。</p>
創意工夫ある教育	<p>学校の特色ある活動である「天童市干布小学校との姉妹校交流」や「四谷子ども園との交流」を継続する。 【施策4】</p>	<p>1「天童市干布小学校との姉妹校交流」では作品や動画、GIGAタブレットによるオンライン交流を取り入れた交流活動を全学年で進める。 【天童委員会】</p>	<p>★教員の取組指標㉙ (3.5ポイント) A 4山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け作品送付などの交流とオンライン交流を合計で2回以上行った。 3山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け、作品を送るなどの交流を1回以上行った。 2干布小に作品を送るなどの交流を1回以上行った。 1上記以下</p>	<p>★各学年の交流の実施状況 6年 東京ガイドマップ紹介 5年 和食の魅力を発信しよう(タブレット活動) 4年 山形県と東京の地理の比較・ガイドマップ 3年 新宿区ガイドマップ 2年 四谷のまちたんけん紹介(タブレット活用) 1年 アルバム写真交流</p>	<p>○6年生の天童との夏の交歓会も実施することができた。オンライン交流や作品交流は、計画通りに実施できている。</p>	<p>●後期も、5年生はオンライン交流を必ず設け、次年度の天童との交歓会に備えることができるようにする。</p>	<p>◎四谷子ども園との交流は、園児が学校に入学する際に、スムーズに連携することにつながるため、非常に有効である。</p>	A	<p>○全学年が作品交流をできた。また、1年生に関しては、11月の全小社研の研究発表会で、児童と園児の交流の学習場面を発表した。</p>	<p>▼次年度に向けて、児童委員会を中心に、計画的に作品交流が進捗しているのかの確認を徹底させる。</p> <p>●3学期から実施した「かけ橋プロジェクト」を次年度以降に充実させ、さらに連携の充実を図る。</p>
	<p>2「四谷子ども園との交流」は、感染症防止対策を行った上で、全学年で1回以上交流の機会がもてるように努める。 【教務・保幼小交流】</p>	<p>★教員の取組指標㉚ (3.5ポイント) A 4直接交流と間接交流を年間2回以上行った。 3直接交流を1回以上行った。 2間接的な交流を1回以上行った。 1上記以下</p>	<p>★各学年の交流の実施状況 6年: スポーツふれあい交流 5年: 交流給食 4年: 音楽の学習発表会 3年: 本の紹介と読み聞かせ 2年: お気に入りの物語を読み聞かせ 1年: おもちゃフェスティバル</p>	<p>○4月に子ども園や近隣の保育園と顔合わせをし、直接に交流するための計画を話し合い、実施することができている。</p>	<p>●各学年が後期も年間計画通りに実施できるように、今後も学期始めに打ち合わせをして、連携を深める。</p>	<p>◎今年度は、天童交換会(夏)を4年ぶりに実施できた。夏の交換会では、35名の児童が参加した。</p> <p>◎スマイルクラブの教育支援組織について、教職員がどのように連携する必要があるのかを再度、確認する必要がある。</p>	<p>○教員の自己評価によると、全学年で2回以上、人材を活用して学習を効果的に高めることができた。 ○アンケート結果から、保護者、児童とともに、前期に比べ後期のほうが地域との関りを強く実感した。</p>	A	<p>○児童は、学校のことを自ら話すことに高学年になるにつれ、抵抗を感じている。 ○HPや学級だより等を出すことで、学校の様子が伝わり、保護者の評価は昨年度より肯定的な意見が高まった。</p>	<p>●スマイルクラブにより授業支援は大変充実することができ、様々な人と交流ができた。次年度は、総合的な学習の時間を中心に、単元の展開や活動を充実させていく。 ▼金管バンドは一部の教員の努力で運営されているため、役割を組織的に明確にしていく。</p> <p>●学校だより、学年だより等は今年度同様、次年度以降も定期的にHPに掲載し、普及を図る。 ●PTA組織とも連携を図り、配布物や学校からの情報を各家庭で確認することの大切さを継続して伝えていく。</p>
地域連携	<p>地域協働学校として、家庭や地域と連携した取組や地域人材活用を充実させることで地域とのつながりを深める。 【施策4】</p>	<p>1スクールコーディネーターやPTAと連携して、読書支援、環境美化、あいさつ運動、天童交歓会運営、金管バンド支援、安全見守り活動の支援を受けたり、外部人材を活用したりして教育活動を進める。 【副校長・学年主任】</p>	<p>★教員アンケート㉛【共通】 (3.8ポイント) A あなたは、児童が学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会に積極的に関わっている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標㉛ 4学級や専科で2回以上の教育活動の支援を受けた。 3学級や専科で1回は教育活動の支援を受けた。 2間接的にゲストティーチャーや教材の支援を受けた。 1上記以下</p>	<p>★児童アンケート㉜ (R5 92.3%) A 学校に関わる地域の人(スマイルクラブの皆さん)から様々なことを教わったり、一緒に活動したりしたことがある。 ★保護者アンケート㉜【共通】 (R5 92.3%) A 学校は、子どもが学校にかかわる地域の人(スマイルクラブの皆さん)と一緒に活動する機会をよくついていると思う。</p>	<p>○スマイルクラブ(地域支援者)による教育支援を各学年で実施できた。スクールコーディネーターによりスマイルクラブのHPを活用し、活動内容やそのよさを保護者に周知できている。</p>	<p>▼今年度は、スマイルクラブの活動を各学年で行っているが、保護者への認知度が低い。ためHPをアップした際は、保護者に周知をして、活用の様子の広報を図る。</p>	<p>◎今年度は、天童交換会(夏)を4年ぶりに実施できた。夏の交換会では、35名の児童が参加した。</p> <p>◎スマイルクラブの教育支援組織について、教職員がどのように連携する必要があるのかを再度、確認する必要がある。</p>	A	<p>○タイムレコーダーを活用し、年間を通して意識しながら勤務時間を調整できた。 ○計画的に校務データの共有をし、紙ベースではなく、電子データで情報共有を図ることができた。</p>	<p>▼教員間で掲示板を活用して情報共有を図ることを徹底したが、見えない教員もいた。次年度以降も、継続して掲示板を見ることを徹底させていく。</p>
	<p>2学校だよりや学年だより、学級だより、学校メールやHPを使って、学校の教育活動の様子を計画的・積極的に発信する。 【副校長・副校長補佐・情報部】</p>	<p>★教員アンケート㉜【共通】 (3.5ポイント) A あなたは、日頃の教育活動の様子などを、保護者会や学級だより等で分かりやすく伝えている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標㉜ 4担当する学年・専科・分掌はHPを月1回以上更新した。 3担当する学年・専科・分掌はHPを学期1回は更新した。 2担当する学年・専科・分掌はHPを年1回以上更新した。 1上記以下</p>	<p>★児童アンケート㉝【共通】 (R5 77.6%) B 学校での授業や行事のことなどについて、家の人に自分から話している。 ★保護者アンケート㉝【共通】 (R5 87.1%) B 学校は、日頃の教育活動の様子などについて、保護者会や学校だより、ホームページ等で分かりやすく伝えていると思う。</p>	<p>○情報部を中心に、各学年の教員がHPに行事の内容をアップできるように周知徹底し、掲載することができている。更新回数も前年度に比べると頻度も高く掲載できている。</p>	<p>▼手紙については、読まない保護者が増加している。PTAと連携して大切さを啓発したが、後期も粘り強く、学校の情報を伝えていく必要がある。</p>	<p>◎今年度は、天童交換会(夏)を4年ぶりに実施できた。夏の交換会では、35名の児童が参加した。</p> <p>◎スマイルクラブの教育支援組織について、教職員がどのように連携する必要があるのかを再度、確認する必要がある。</p>	<p>○タイムレコーダーを活用し、年間を通して意識しながら勤務時間を調整できた。 ○計画的に校務データの共有をし、紙ベースではなく、電子データで情報共有を図ることができた。</p>	A	<p>○アンケート調査により、学年が上がるにつれ、自らの学習状況を分析できる力が高まっている。 ○都小社研と連携を図り、全小社研東京大会で研究成果を500名の参加者に発表することができた。</p>	<p>●今年度の研究成果をいかし、次年度の四谷小の児童の学力を高めていくために、どのような学びが必要なかを吟味し、児童が主体的な学びができるような研究活動を進めていく。</p>
学校独自の取組	<p>新宿区の方針に基づき、学校の実情に応じた働き方改革をすすめる。 【施策9】</p>	<p>1働き方改革をすすめる。 ・最終退勤時刻や定時退勤日の設定し奨励する。 ・計画の整備とデータの保管・共有を推進する。 ・目的と必要性を吟味し行事や校務を精選する。 【管理職・企画委員会】</p>	<p>★教員の取組指標㉞ (3.6ポイント) A 4働き方改革で生まれた時間を自己の資質・能力の向上や子供と向き合う時間に活用している。 3校務のデータの保管・共有・活用を積極的にすすめて業務の効率化や精選を進め、勤務時間の縮減に努めた。 21週間の勤務時間が60時間(超えると要面接)以内になるように見直しをもって業務の配分をしている。 1水曜日の定時退勤日の実現に努めた。</p>	<p>★保護者アンケート㉞ (R5 95.8%) A 教職員は、誠実に子どもや保護者に接している。</p>	<p>○11月研究発表会を控えているが、会議を計画的に遂行することで、定時に近い時間で退勤したり教材研究をしたりする時間を確保できている。</p>	<p>▼6年の移動教室や5年の夏季施設に関しては、全ての手配を担当が行うため、かなりの時間を費やしており、来年度に向けて業務の改善が必要である。</p>	<p>◎教員の働き方改革に取り組んでいることは、今後も継続してほしい。そのために、地域の人材を活用できるように、学校運営協議会でも、先生方と連携を深めていきたい。</p>	A	<p>○タイムレコーダーを活用し、年間を通して意識しながら勤務時間を調整できた。 ○計画的に校務データの共有をし、紙ベースではなく、電子データで情報共有を図ることができた。</p>	<p>▼教員間で掲示板を活用して情報共有を図ることを徹底したが、見えない教員もいた。次年度以降も、継続して掲示板を見ることを徹底させていく。</p>
	<p>令和5年度の全国大会に向けて、社会科を中心に実践研究を通して、主体的・対話的で深い学びを推進する。 【施策1】</p>	<p>1年間通して授業実践の実践と協議を通して社会科の授業づくりの方策や評価方法について研究し、各研究授業は区や都小社研に紹介し、研究成果を広める。 【研究推進委員会】</p>	<p>★教員の取組指標㉟ (3.7ポイント) A 4以下の3の取組に加えて、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る工夫した授業に取り組んだ。 3以下の2の取組に加えて、四谷スタイルの授業に取り組んだ。 2生活科での体験的活動や社会科で問題解決的な学習を行い、振り返りカードや学び方カードを継続的に活用して見直しと振り返る力を高める。 1上記以下</p>	<p>★社会科アンケートの回答(全国平均ポイントの差) ① 学習問題を決めてその解決のために調べたり考えたりすることができる。 4年14.8P↑5年21.3P↑6年7.7P↑ A ② 自分の考えを資料などを使って説明することができる。 4年13.2P↑5年16.8P↑6年7.7P↑ A ③ 調べたことをもとに自分の考えを書くことができる。 4年11.0P↑5年11.7P↑6年12.8P↑ A ④ 学習問題やテーマを決めて討論(話し合い)することが好きだ。 4年15.4P↑5年21.6P↑6年19.6P↑ A</p>	<p>○学び方カードを活用し、児童が自らの学習に取り組む姿を分析し、教員が授業に生かすことができている。 ○学年が上がるにつれて、自分の学びの様子を把握できている。</p>	<p>●都小社研との連携を図りながら、研究授業を予定通り行うことができた。 ▼学年が上がるにつれ説明する意欲等に課題があるため、グループ活動を工夫して行うようにする。</p>	<p>◎今年度は、天童交換会(夏)を4年ぶりに実施できた。夏の交換会では、35名の児童が参加した。</p> <p>◎スマイルクラブの教育支援組織について、教職員がどのように連携する必要があるのかを再度、確認する必要がある。</p>	A	<p>○タイムレコーダーを活用し、年間を通して意識しながら勤務時間を調整できた。 ○計画的に校務データの共有をし、紙ベースではなく、電子データで情報共有を図ることができた。</p>	<p>▼教員間で掲示板を活用して情報共有を図ることを徹底したが、見えない教員もいた。次年度以降も、継続して掲示板を見ることを徹底させていく。</p>

